



薬薬連携 1

病院のそこが知りたい～病院薬剤師からの現場レポート～ 連載開始のお知らせ

恩方病院 薬剤部長 あべひろこ 阿部宏子
東京都薬剤師会 出版委員 しもだいらひでお 下平秀夫

最近、医療に対して国民の期待が高く、また、大変厳しい眼で見られています。特に薬剤師は、昨年より薬剤師教育6年制が開始され、いよいよ職能を評価される正念場を迎え、病院薬剤師と薬局薬剤師の連携が重要視されています。

いわゆる薬薬連携については、以前より多摩薬薬連携協議会についてご紹介させていただいています¹⁾。

2007年5月29日には、第7回多摩薬薬連携フォーラムを開催しました。今回は始めて市民参加型のフォーラムとし、患者の立場からのシンポジストが3名いらっしゃいました。

また、2006年11月に開催された第16回日本医療薬学会年会（金沢）の薬薬連携シンポジウムについては本誌2007年新年号に掲載させていただきました²⁾。また、その2週間後に開催された第39回日本薬剤師会学術大会（福井）でもシンポジウムがありました。このように全国的にも薬薬連携の機運が盛り上がっています。

連携をするためには、お互いをよく知ることが大切であることはいうまでもありません。そのようなことから東京都病院薬剤師会雑誌（隔月発行）において、2004年に「そとからみた薬剤師」というテーマで5回連載を企画させていただきました³⁾。これは、もと病院薬剤師の経験があり、今薬局などを行っている方々に、外部から病院薬剤師をみて指摘してもらい、連携していこうという趣旨でした。

そのような経緯があり、本誌でもなんらか



の薬薬連携をしていきたいと考えました。そこで、本誌に病院薬剤師の活動を執筆していただくことで、連携の足がかりとしたらどうだろうというのが、今回の連載の発想です。

幸い、本誌出版の主担当常務理事は、2006年4月より東京都病院薬剤師会会長に就任された谷古宇秀先生で、大いに連携して都薬雑誌を盛り上げるよう、ご指示いただいております。

テーマと人選は、阿部、下平が請け賜り、日本病院薬剤師会、東京都病院薬剤師会の先生方に大変お世話になり実現することになりました。ご執筆にあたっては、わかりやすく、親しみやすい内容で、できる限り写真か図・表を挿入していただけるようお願いするつもりです。来月号からの連載にどうぞご期待ください。

◎「病院のそこが知りたい」病院薬剤師からの現場レポート掲載予定（仮題）

1. 連載開始のお知らせ
2. 今回の医療改正で病院はどうなるの？

3. 感染制御ってどうしているの？
4. 眼科の服薬指導はどうしているの？
5. 病院の支部組織の役割は？
6. 薬薬連携をするためにどうすれば良いのでしょうか？
7. 医療事故防止の取り組みは？
8. 卒後教育・生涯教育はどうしてますか？
9. 専門薬剤師ってどうなの？
10. 6年制の実務実習はどうなの？
11. ジェネリック薬品の採用はどうなの？進んでいるの？
12. 精神科治療の古今は？
13. 糖尿病治療と地域医療連携はどうしているの？
14. プレアボイドとは？
15. 医薬品情報を得るための関連図書やホームページは？
16. インターネットの医薬品情報の共有は？
17. 持参薬の対応はどうしているの？
18. 心筋梗塞の二次予防について教えて？
19. 個人情報保護法はどう対応しているの？
20. 災害時の被災地への対応はどうしていますか？
21. 患者さんへの情報提供は？
22. ガン治療はどこまで進んでいるの？
23. 緩和ケアと地域医療連携はどうしているの？
24. 褥瘡治療と在宅医療との連携は？
25. チーム医療はどうなっているの？

26. 病院薬剤師は生き残れるか？
27. 病院薬剤師のボトムアップの取り組みは？
28. 日本医療機能評価機構の認定？
29. 退院時服薬指導書で地域医療連携はどうですか？

執筆者は、毎回変わります。東京都病院薬剤師会の会長、副会長から執筆していただく予定です。毎月掲載しても約3年の長期連載になると思います。時代の流れによってタイトルも変化し、執筆順も変わるとお思いますので、ここに挙げたものは概要とお考えください。ご執筆の要望があれば是非、都薬事務局出版担当経由にてご提案ください。

文献

- 1) 下平秀夫, 「交流なかった病院・薬局が情報交換—薬薬連携」, 連携医療創刊号p.24-25 エルゼビア・ジャパン 2005.1
- 2) 下平秀夫, 「日本医療薬学会参加レポート—薬薬連携に関するシンポジウムを中心に—」都薬雑誌 2007.1
- 3) 下平秀夫, 「そとからみた病院薬剤師 第一回自分が変わればうまくいく」東京都病院薬剤師会雑誌 2004.3
- 4) 阿部宏子, 「多摩薬薬連携協議会の活動状況—お薬手帳への退院時処方記載の課題—」都薬雑誌 2005.5